

第 1 回孤独・孤立対策の在り方に関する有識者会議資料に対する意見

埼玉県知事 大野元裕

○ 資料 4「『孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画』に関する主な論点」について

【意 見】

- ・ ①今後必要な施策の検討については、「重点計画」に沿って施策を進めるべきであることから、NPO等への支援を着実に行う観点や、孤独・孤立対策の安定的・継続的な実施の観点から検討することに賛成する。
- ・ ②その他、孤独・孤立対策の観点から個別に議論すべきと考えられる事項については、例に挙げられた「分野横断的な多機関連携」、「幅広い世代への社会参加・活躍支援等」、「単身高齢者の孤独・孤立の予防に関する取組」について検討することに異論はない。
- ・ なお、「単身高齢者の孤独・孤立の予防に関する取組」は、重層的支援体制整備事業など、福祉的な枠組みでの取組を中心に施策が進められているが、埼玉県では、高齢者やこどもたちを見守ることができるコンパクト、スマート、レジリエントなまちづくりのため、「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」を推進している。このように、まちづくりの視点など幅広い視点での施策検討が必要と考える。

○ 資料 5-1「孤独・孤立対策の各種施策の評価・検証の在り方について」について

【意 見】

- ・ 各種施策の評価・検証を通じた取組を推進する観点から、好事例の横展開などを含め、議論を深めていくことに賛成である。
- ・ 議論を深める上では、昨年度の第 4 回有識者会議で意見を提出させていただいたとおり、「アウトカムの重要性」、「実態調査による指標の変化を追跡する必要性」、「団体の運営能力の向上を効果として考慮」、「地方の特性を生かせる部分を示すことで地方の取組を促進」といった視点が重要と考える。
- ・ なお、好事例の横展開について、埼玉県では、多様な主体の連携による孤独・孤立対策の取組を表彰する「つながる S A I T A M A 大賞」を創設し、令和 6 年 1 2 月に第 1 回表彰式を行って、取組の普及発展を図っているところである。各地域における取組も踏まえ、国と地方の役割分担などを整理することも必要と考える。